

こどもの捷路、ところにより...

立体・集合的路地網



建築・都市アメニティグループ

佐藤 直樹

○1.敷地

■○1.敷地概要■

本計画では、高齢化率が高く地域コミュニティが衰退してきていると考えられることから由利本荘市を対象とする。

また通学路を辿って来た子ども達を敷地内に引き込むために、周辺部に小学校や中学校が存在し、さらに普段から通学路として使用されている道が存在することを敷地選定の際の条件とした。

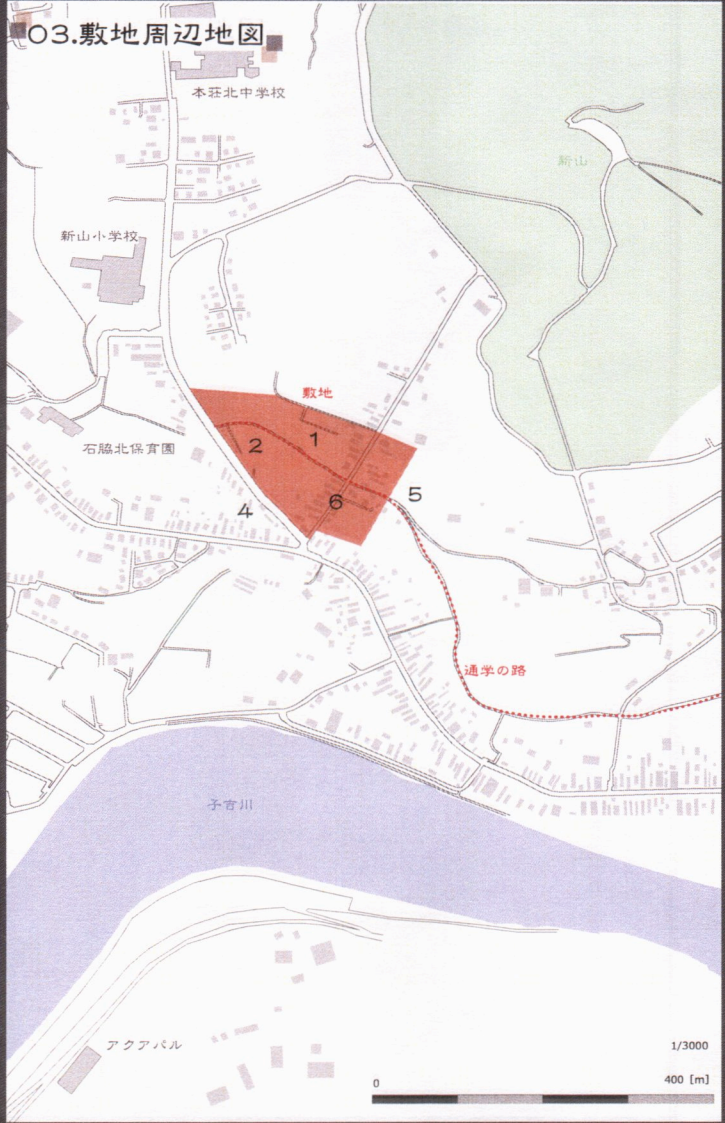
以上のことを考慮した結果、秋田県由利本荘市石脇の新山小学校付近の傾斜地を選定した。対象敷地は小学校に隣接して幼稚園と中学校も立地しているため、周辺に住む子ども達だけでなく学区内の子どもが集まる場所となっている。それに加えて敷地内を歩行者専用道路が横切っており、地域内の安全な道として機能していた。

また、敷地から鳥海山、子吉川、日本海を一望できる場所となっているためこれらの景観も含めた提案を行う。

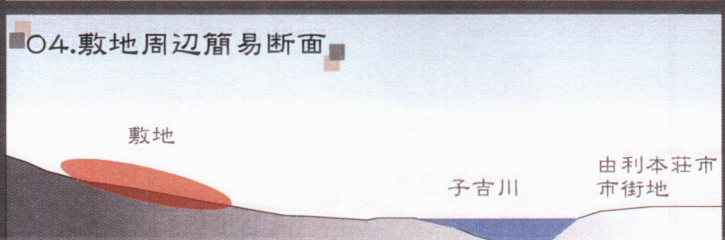
■○2.敷地周辺写真■



■○3.敷地周辺地図■



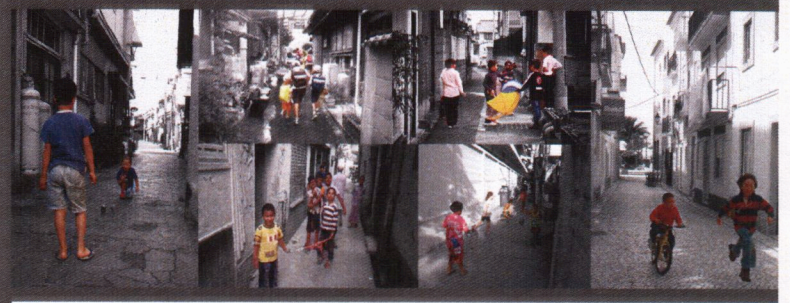
■○4.敷地周辺簡易断面■



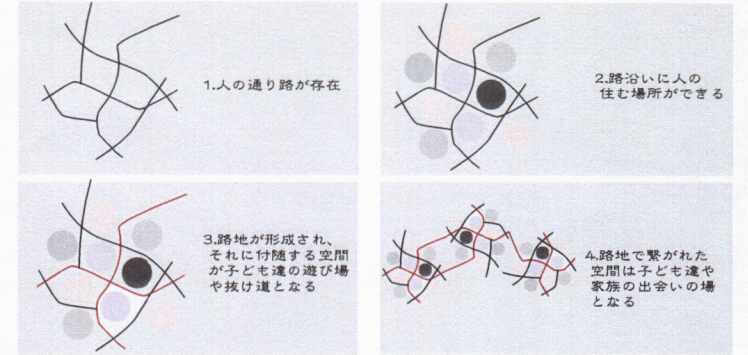
○2.設計概要

■○1.設計背景■

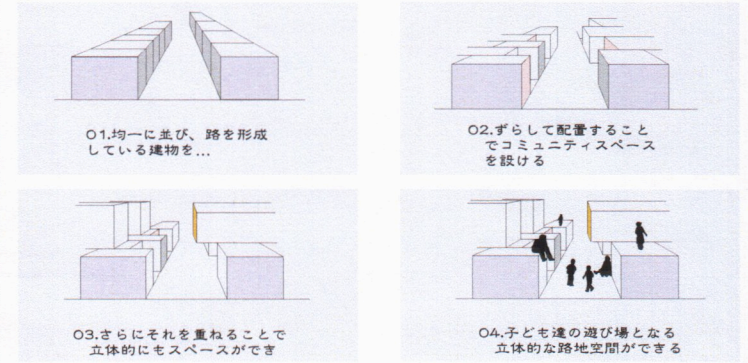
現在、1970年代までの過度なモータリゼーション対応型の都市整備の反省から、コミュニティが密であるヒューマンスケールの都市計画や建築デザインの真諦が遡られている。しかし、少子・高齢社会に伴い、コミュニティは以前に比べると希薄化しているのが現状である。かつては、子ども達が近所を行き交う事で、それが家族ぐるみの付き合いに発展していた。そこで、『子ども達+路地空間』を媒介として、子ども達が日常の登下校に使う通学路沿いに住民同士のコミュニティを活性化させるための住宅群を結ぶ『路地網』の設計を行う。



■○2.基本コンセプト■

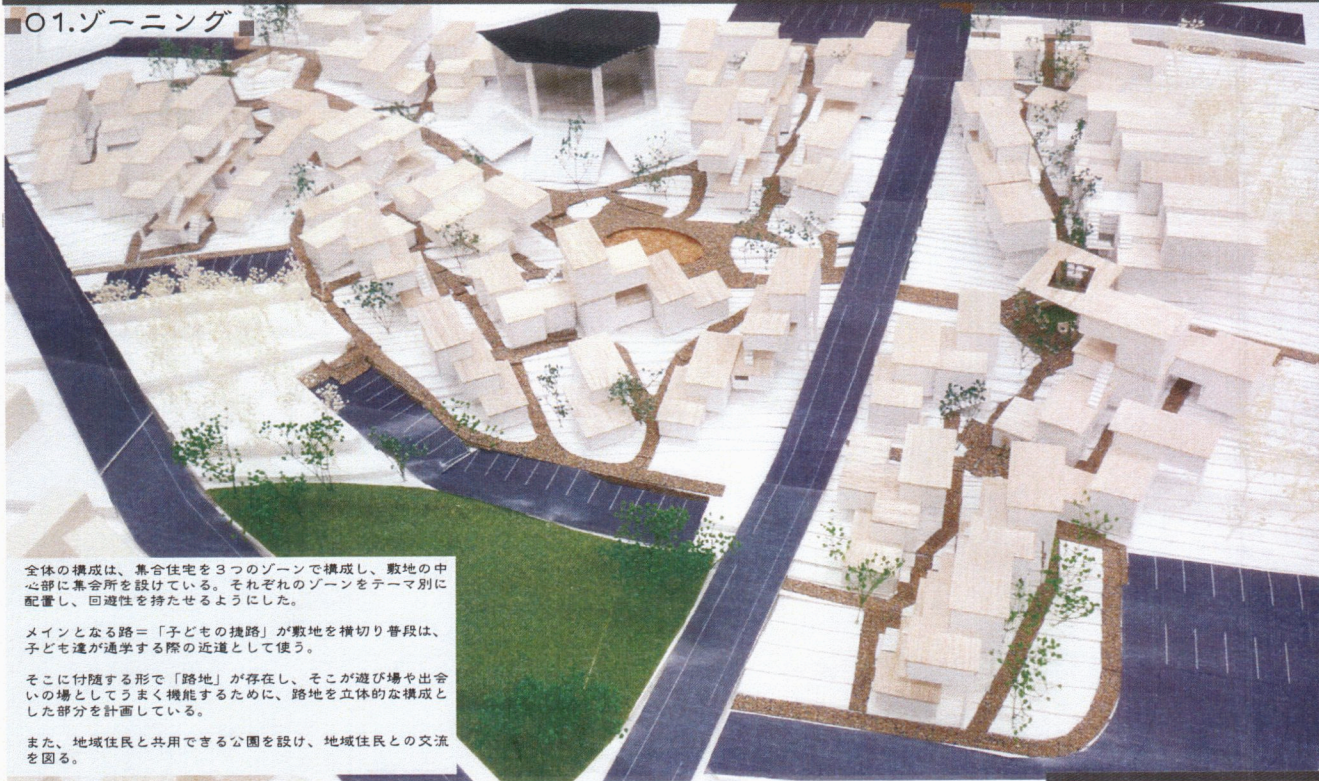


■○3.空間操作プロセス■



03.全体計画

01.ゾーニング



全体の構成は、集合住宅を3つのゾーンで構成し、敷地の中心部に集会所を設けている。それぞれのゾーンをテーマ別に配置し、回遊性を持たせるようにした。

メインとなる路＝「子どもの捷路」が敷地を横切り普段は、子ども達が通学する際の近道として使う。

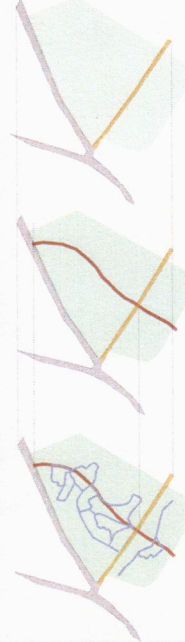
そこに付随する形で「路地」が存在し、そこが遊び場や出合いの場としてうまく機能するために、路地を立体的な構成とした部分を計画している。

また、地域住民と共用できる公園を設け、地域住民との交流を図る。

02.路のヒエラルキー

路のヒエラルキー（階層構造）は、3つの路によって構成されている。

これらの路を重ね合わせ、建物が配置される事で「出合いの場」や「遊び場」を獲得する。



①引き込みの道

新山に向かって登る道を、人や車を集合住宅に引き込む道とする

②こどもの捷路

新山小学校、本荘北中学校に向かう子ども達が、登下校の近道として抜けていく

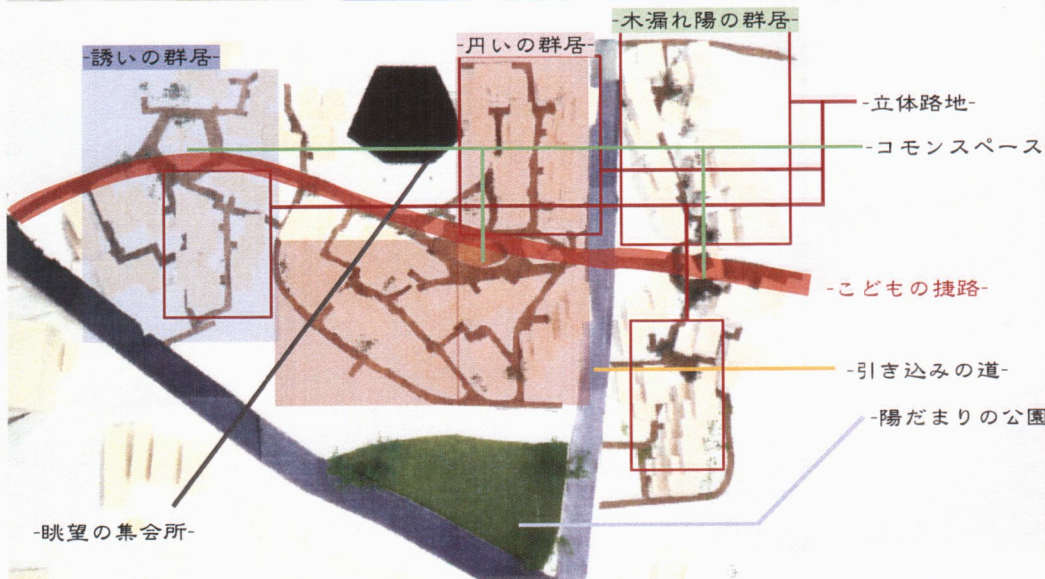
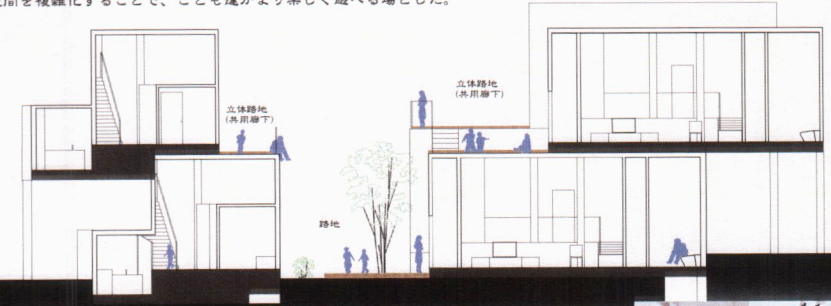
③路地

住民の生活のための路、子ども達の遊び場となる

03.立体路地の断面

立体路地となっている部分は、1階が路地、2階が路地兼共用廊下として使われる。

共用廊下は、普段は3階に住む住民が家に帰るための通路として使用するが、それ以外には子ども達が「上って鬼ごっこをしたり、かくれんぼをしたりする場所となっている。通り抜けも可能になっており、空間を複雑化することで、子ども達がより楽しく遊べる場とした。



04. 平面計画

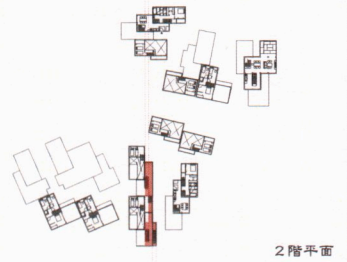
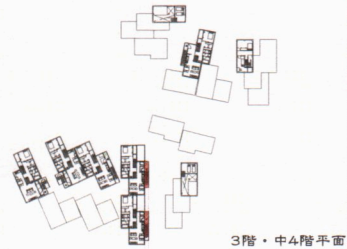
誘いの群居-



誘いの commons ペース



「誘いの群居」は、新山小学校側から子ども達を呼び込む場所とした。中央の commons ペースには誘いの木を置き周りにベンチを置く。小学校側の道路から直接見える配置となっており、木の周りに友達や知り合いがいるのを見て子ども達が自然と引き込まれていく場とした。



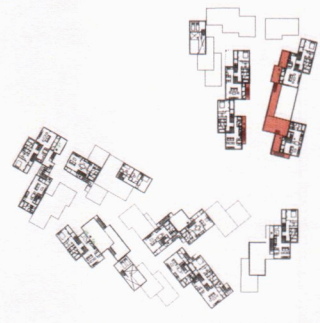
円いの群居-



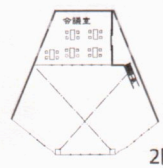
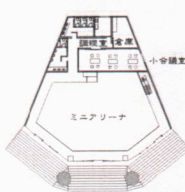
円いの commons ペース



「円いの群居」は、敷地の中央部に位置しており、子ども達だけでなく大人達と一緒に遊べる場所とした。路の形状を円形としさらに路を網目状に結んでいく事で、回避性を持たせ住人同士が交流し易い空間構成となっている。中央の commons ペースは、円形にして掘り下げる事で求心力を持たせる。そこに人が集まり、子どもと大人が交流する場とした。



眺望の集会所-



「集会所」は、1階がミニアリーナとなっており、2階が眺望の集会所となっており子ども達が集まる場所とした。また、集会所を1階と2階に設け住人達の話し合いの場を設けた。

集会所からは、新山山・子育て・自然園が見えるようになっている。集会所は敷地の中心の場所に設けられている。



木漏れ陽の群居-



木漏れ陽の commons ペース

「木漏れ陽の群居」は、北東側が新山となっており比較的に木々が生い茂っている場所である。そのため、住宅内の路をほぼ1本路とすることで、子ども達が走り回る空間というよりは、自分の居場所を見つけながら過ごすための場とした。

また、中央の commons ペースに木を植えベンチを設置することで、寄り添える木とし地域住民も安らげる場とした。

住戸構成は、1階の屋上が上層部へのアプローチとなっており路にいる人と屋上にいる人の交流が期待できる。

